

# 製品安全データシート

新規作成 : 2006年04月06日

改訂 : 2013年 6月29日

## 1. 製品及び会社情報

製品名 : SDP-α OEL・ペン

### 製造者情報

会社名 : 三菱製紙株式会社

住所 : 〒130-0026 東京都墨田区両国2丁目10番14号

担当部門 : 技術環境部

問い合わせ窓口 : イメージング事業部

印刷感材営業部 (電話番号 : 03-5600-1475)

奨励用途及び使用上の制限 : シルバーディジプレートα Lタイプ用修正ペン

## 2. 危険有害性の要約

### GHS分類

物理化学的危険性 : 分類基準に該当しないまたは分類できない

健康に対する有害性 : 皮膚腐食性/刺激性 区分3

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 区分2A

皮膚感作性 区分1

生殖毒性 区分2

特定標的臓器/全身毒性 (反復暴露) 区分1

(甲状腺、皮膚、全身毒性)

環境に対する有害性 : 水生環境有害性 (急性) 区分2

水生環境有害性 (慢性) 区分2

### ラベル要素



感嘆符

健康有害性

環境

注意喚起語 : 危険

### 危険有害性情報

: 強い眼刺激性

アレルギー性皮膚反応を引き起こす恐れ

軽度の皮膚刺激

生殖能または胎児への悪影響のおそれの疑い

水生生物に毒性あり

長期的影響により水生生物に毒性

長期または反復暴露による臓器の障害

### 注意書き

環境への放出を避けること

換気の良いところで使用すること  
 蒸気／ミストの吸入をしないこと  
 不浸透性保護手袋、保護眼鏡、保護マスク、保護衣を着用すること  
 この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと  
 取扱い後は手を十分に洗浄すること  
 処理薬品の使用方法に従って正しく使用すること  
 すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと  
 指定された個人用保護具を使用すること

### 3. 組成・成分情報

単一製品・混合物の区別 : 混合物

一般名 : 消去液

成分及び含有量

	官報公示整理番号	Cas No.	含有量%
ヨウ化カリウム	(1)-439	7681-11-0	10-20
ヨウ素	* 対象外	7553-56-2	5-10
DTPAアンモニウム鉄塩*	既存	85959-68-8	10-20
プロピレングリコール	(2)-234	57-55-6	30-40
トリエチレングリコール			
モノブチルエーテル	(2)-436	143-22-6	5-20
水	対象外	7732-18-5	>20

\*ヨウ素 安衛法57条の2 通知対象物質 施行令第18条の2

\*DTPAアンモニウム鉄塩 安衛法57条の2 通知対象物質 施行令第18条の2  
 (水溶性鉄塩)

### 4. 応急処置

吸入した場合 : 吸入の可能性は少ないが、大量のミストを吸入すると粘膜を刺激することがある。大量のミストを吸入した場合は、速やかに空気の新鮮な場所に移動してください。炎症が残っているようでしたら医師の診察を受けてください。

皮膚に付着した場合 : 接触すると炎症を起こすことがある。直ちにきれいな流水で洗い流してください。

皮膚刺激が生じた場合は、医師の診断／手当を受けてください。

目に入った場合 : 直ちにきれいな流水で15分以上洗い、炎症が残っているようでしたら医師の診察を受けてください。洗浄の際、まぶたを指でよく開いて、眼球、まぶたのすみずみまで水がよく行きわたるように洗浄してください。コンタクトレンズを使用している場合は、固着していない限り、取り除いて洗浄を続けてください。

誤飲した場合 : 水でよく口の中を洗浄し、大量の水を飲ませて、直ちに医師の手当を受けてください。意識があっても無理に吐かせないようにしてください。

### 5. 火災時の措置

消火剤 : 散水、ドライケミカル、炭酸ガス

使ってはならない消火剤 : 特になし

特定の消火方法：不燃性ですが、周辺火災の場合には移動可能な容器は、速やかに安全な場所に  
移してください。

保護具等：消火の際は自給式呼吸器具及び完全保護具を着用してください。  
風上から消火活動を行ってください。

## 6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項：漏出した場所の周辺にロープを張るなどして関係者以外の立ち入りを  
禁止してください。保護具（送気マスク、空気呼吸器、保護手袋、ゴー  
グル型保護眼鏡、保護面、安全帽、長袖保護服、保護長靴など）を必ず  
着用して回収してください。風上で作業してください。多量の場合は、  
人を安全に避難させてください。

環境に対する注意事項：ごく少量の場合は、大量の水で洗い流してください。漏出した液体や洗  
浄に使用した汚染水が河川等に排出され、環境に影響を及ぼさないよう  
注意してください。

除去方法：砂または不燃性吸収剤で吸収し、空容器に回収してください。  
回収した液を廃棄する場合は関係法規に従ってください。

## 7. 取扱い及び保管上の注意

### 取扱い

技術的対策：目や皮膚に接触すると炎症を引き起こすことがありますので適当な保護具（保護  
眼鏡、保護手袋）を着用し取扱ってください。取扱い場所の近くに、緊急時に洗  
眼、及び身体洗浄を行うための設備を設置してください。休憩場所には、手洗い、  
洗顔等の設備を設け、取扱い後には手、顔等をよく洗うようにしてください。

局所排気・全体換気：密閉された装置、機器、または強制換気による換気を行ってください。

注意事項：取扱いは十分な換気のもとで行ってください。

保管：キャップを確実に閉めて涼しい場所に置いてください。  
強酸物質、アルカリ性物質と一緒に保管しないでください。  
子供の手の届くところには置かないでください。  
施錠して保管すること

## 8. 暴露防止及び保護措置

設備対策：密閉された装置、機器、または局所排気装置を使用する

管理濃度 安衛法管理濃度：未設定。

許容濃度：日本産業衛生学会 ヨウ素 0.1ppm 1mg/m<sup>3</sup>

ACGIH/TWA DTPAアンモニウム鉄塩 1mg/m<sup>3</sup> (as Fe)

ACGIH/STEL ヨウ素 0.1ppm

保護具：呼吸器 保護マスク  
手 保護ゴム手袋  
目 保護眼鏡  
皮膚及び身体 保護衣

## 9. 物理的及び化学的性質

形状：液体

色：無色透明～淡黄色

臭い：若干あり

pH (at25℃)：5.5 - 6.5

沸点：>100℃

融点：<-4℃

引火点：引火性なし  
自然発火温度：データなし  
燃焼または爆発範囲：データなし  
蒸気圧：水と同様  
蒸気密度：データなし  
比重(at25℃)：1.0 - 1.1  
溶解度：水に可溶  
オクタノール／水分配係数：データなし  
分解温度：データなし

#### 10. 安定性及び反応性

安定性：通常の手扱い条件下では安定である。  
反応性：強酸と混合すると有害な亜硫酸ガスが発生する懸念がある。  
避けるべき条件：高温、直射日光  
混触禁忌物質：強酸、アルカリ性物質  
分解による有害性：加熱分解でNO<sub>x</sub>ガス、CO<sub>x</sub>ガスが発生する懸念がある。

#### 11. 有害性情報

急性毒性LD50：実測値はないが、成分から推定した値では2000mg/Kg（ラット経口）以上。  
皮膚腐食性・刺激性：アレルギー性皮膚反応を引き起こす恐れがある。

##### ・ヨウ素

具体的な症例報告はないが、産衛学会勧告（1993）の局所作用として皮膚の水ほうを起こすとの記述から、皮膚刺激性があると判断し、区分2とした。

眼に対する重篤な損傷性・眼刺激性：

##### ・ヨウ素

具体的な症例報告はないが、産衛学会勧告（1993）の局所作用として結膜炎をおこすとの記述から、眼刺激性であると判断し、区分2A-2Bとした。

##### ・トリエチレングリコールモノブチルエーテル

ウサギ眼に適用後全観察時点で全動物に結膜の発赤および浮腫が認められ、総スコアが21（最大110）であった（SIDS (Access on July. 2008)）。また、試験物質の濃度を変えて刺激性を評価した別の試験では強い刺激性 (highly irritating) を示し、スコアは5（最大10）に達した（SIDS (Access on July. 2008)）。これらの結果に基づき区分2Aとした。

##### ・ヨウ化カリウム

ウサギの角膜にヨウ化カリウムの3%溶液を適用したところ、僅かな刺激性 (only slight reaction) を認めたのみで、刺激の程度の評点は最大100に対し17であったとの結果（HSDB (2006)）に基づき区分2Bとした。

呼吸器感作性又は皮膚感作性：

##### ・ヨウ素

皮膚 日本接触皮膚炎学会の皮膚感作性物質にリストアップされており、日本産業衛生学会許容濃度勧告には感作性物質：皮膚第2群に、また日本職業・環境アレルギー学会では皮膚感作性物質としてリストアップされており（日本職業・環境アレルギー学会雑誌, 2004）、ACGIH (7th, 2001)およびPATTY (4th, 1994) にそれぞれ別々の接触皮膚炎の症例報告があることから、区分1とした。

生殖細胞変異原性：情報なし

発がん性：情報なし

生殖毒性：

##### ・ヨウ化カリウム

動物試験では妊娠中のウサギおよびミンクに経口投与により、仔の生存率低下あるいは出

生数減少が認められている（CICAD 72（2009）、HSDB（2006））。一方、ヒトの情報として甲状腺腫を発症した幼児について、母親が妊娠期間中にヨウ化カリウムを摂取していたとする複数の報告（ATSDR（2004）、Birth Defects（3rd, 2000））があり、また、幼児の甲状腺機能低下（ATSDR（2004））も報告されている。以上の報告は動物およびヒトで妊娠中のばく露が児の発生に悪影響を及ぼすことを示唆しており、ヒトに対する生殖毒性が疑われるため区分2とした。

特定標的臓器・全身毒性－単回暴露：

- ・ヨウ素

ACGIH（7th, 2001）、PATTY（4th, 1994）、産衛学会勧告（1993）のヒトで蒸気や溶液のミストの吸入により気道刺激性が認められるとの記述から、区分3（気道刺激性）とした。

特定標的臓器・全身毒性－反復暴露：

- ・ヨウ素

ATSDR（2004）のヒトで経口摂取により甲状腺の疾患（甲状腺機能低下、機能亢進または甲状腺炎）を起こすとの記述から、区分1（甲状腺）とした。

- ・ヨウ化カリウム

肺疾患治療の一部として当該物質を含む薬剤の投与を受けていた患者で、顔、頭皮、体幹、腕などに増殖性皮膚病変の発症が見られた複数の事例（ATSDR（2004））があり、また、経口摂取していた患者がヨウ素薬疹を発症した報告（ATSDR（2004））もあり、区分1（皮膚）とした。また、当該物質を含む薬剤を投与された患者に甲状腺肥大や血清中T4濃度の低下とTSH濃度の上昇を伴う甲状腺機能低下が見られ（ATSDR（2004））、一方、甲状腺機能亢進を示す複数の事例（CICAD 72（2009）、JECFA 24（1989））もあることから、区分1（甲状腺）とした。さらに、重大な副作用として、あるいは長期の摂取によりヨウ素中毒を起こす可能性が指摘され（医療用医薬品集（2010）、HSDB（2006））、ヨウ素中毒の所見には皮膚と甲状腺に関する症状以外に、眼、口および呼吸器に対する刺激性、喘息、耳下腺炎、胃炎、全身衰弱などが記載され（医療用医薬品集（2010）、HSDB（2006））、また、経口摂取した患者では免疫機能に基づくと見なされている発熱の報告が目立ち（CICAD 72（2009））、これらの諸症状について標的臓器の特定が困難なため区分1（全身毒性）とした。以上より、分類は区分1（甲状腺、皮膚、全身毒性）となる。

吸引性呼吸器有害性：情報なし

## 1.2. 環境影響情報

水生環境有害性（急性）：

- ・ヨウ素

甲殻類（オオミジンコ）の48時間LC50=0.16mg/L（ECETOC TR91、2003）。

水生環境有害性（慢性）：

- ・ヨウ素

急性毒性が区分1、水中での挙動および生物蓄積性が不明であるため、区分1とした。

残留性・分解性：データなし

生体蓄積性：データなし

## 1.3. 廃棄上の注意

水質汚濁防止法（生活環境項目）及び下水道法（下水の排除の制限）に該当しますので、河川、下水等にそのまま排出することはできません。

本製品を廃棄する場合は、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」及び「都道府県条例」に

